

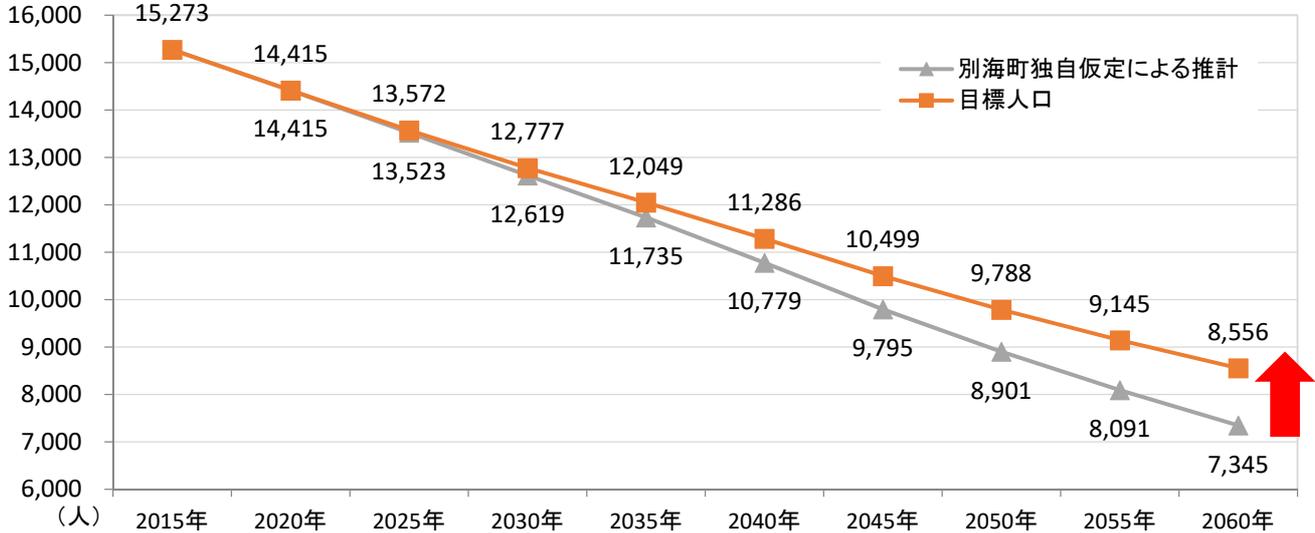
令和4年度  
別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略  
効果検証報告書

別海町  
総務部総合政策課

# I 第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略について

「第2期総合戦略」では、新たに行った将来人口の推計を基に、2060年における本町の目標総人口を8,500人以上と設定し、その目標達成に向け、今後の人口減少対策として4つの基本目標を掲げました。

○ 将来人口の推計と目標人口



## 基本目標

**I 町の産業を担う次世代へ安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす**

**II 魅力あふれる地域資源・地域特性を活かした新しいひとの流れを創造する**

**III 結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる**

**IV 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る**

## 具体的な施策

- (ア) 新規就業者・担い手支援
- (イ) 産業の競争力強化
- (ウ) 若者人材の育成と定着の取組
- (エ) 地域と連携した特色ある教育の推進

- (ア) 地域資源を活かした交流人口拡大の取組
- (イ) ふるさと納税を活用した関係人口拡大の取組
- (ウ) 移住促進を図る移住体験施設の整備

- (ア) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援
- (イ) 高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進や住みよいまちづくりの推進

- (ア) 安心な暮らしの確保
- (イ) 市街地の活性化
- (ウ) 効率的・複合的な施設整備と地域活性化
- (エ) スポーツ・健康まちづくりの推進
- (オ) 環境・エネルギー先進自治体の形成

## II 総合戦略の評価について

### 1 評価の目的

別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)に位置付けた各施策の更なる推進に向けた課題の改善を図り、より一層高い効果を発揮させることを目的とする。

### 2 進捗管理と推進体制

～総合戦略 第4章 一部抜粋～

総合戦略では、基本目標ごとに明確な数値目標を設定するとともに、基本目標を達成するための具体的な施策ごとに、施策の効果を客観的に検証できる指標「重要業績評価指標(KPI)」を設定します。

毎年度、具体的な事業の実施状況などをもとに、それぞれの施策の効果を検証するとともに、「別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略検討推進委員会」の意見等をいただきながら、改善・推進していく仕組み(PDCAサイクル)を確立します。

- 重要業績評価指標(KPI)とは 【Key Performance Indicator】  
施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標
- PDCAサイクルとは 【Plan-Do-Check-Action】  
Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法

### 3 評価の流れ

- ① 1次評価:事務事業の担当者が分析し、部課単位で評価
- ② 別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略検討推進委員会による検証
- ③ 2次評価:②の評価結果を基に、総合的に再評価
- ④ 公表(町HP)

### 4 評価手法

総合戦略の評価は、「総合戦略の総合評価」、「基本目標の評価」及び「具体的な施策と重要業績評価指標(KPI)の進捗確認」で構成する。

なお、検証に当たっては、「数値目標」及び「重要業績評価指標(KPI)」の達成度に重点を置き、施策を推進する上での課題などその他考慮すべき事項等を勘案し、総合的に判断する。

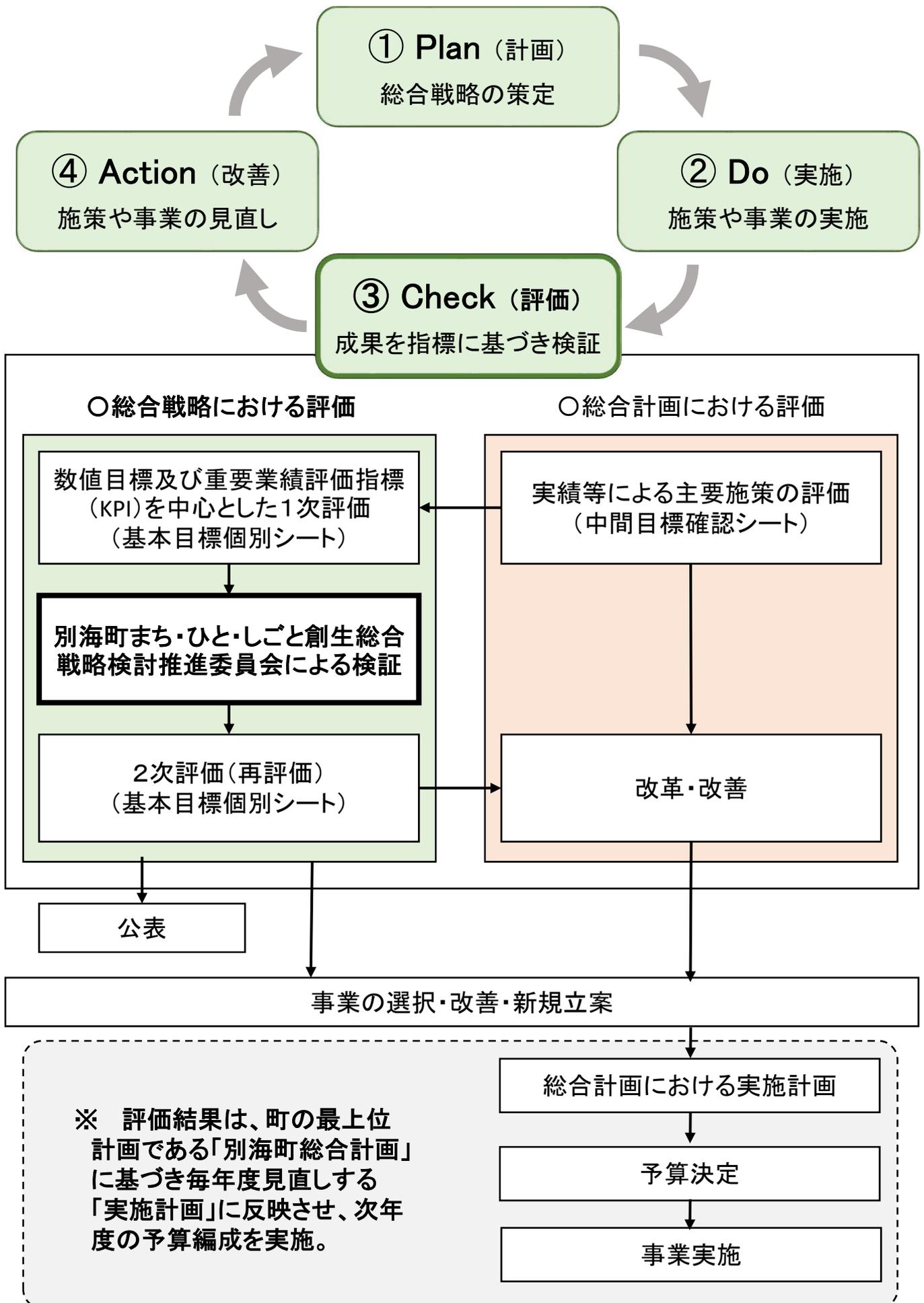
○評価区分 ※令和3年度評価からD区分を設け、4段階評価に変更。

A: 順調に進んでいる

B: 概ね順調に進んでいる

C: あまり順調に進んでいない D: ほとんど順調に進んでいない

### Ⅲ 総合戦略の評価の仕組み(イメージ)

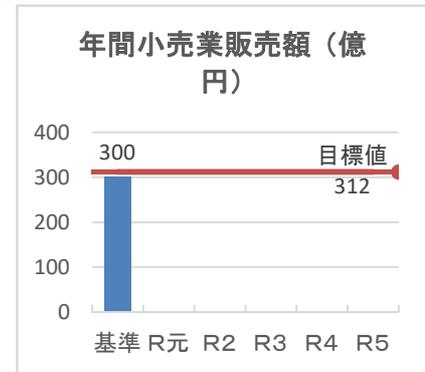
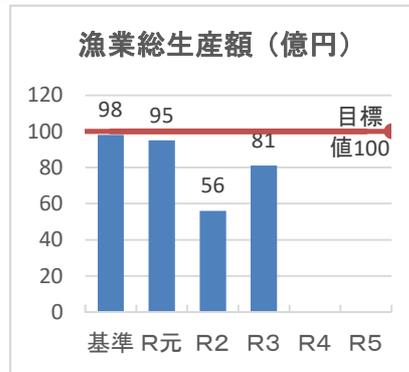
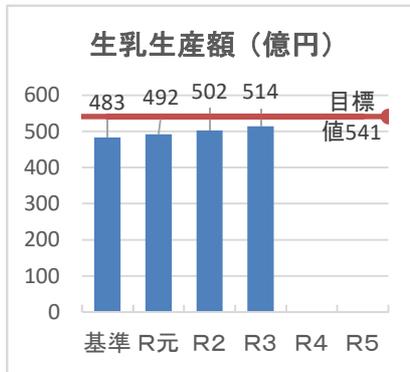


# 別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標個別シート(令和3年度)

基本目標 I	町の産業を担う次世代へ安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす							
関連するSDGsのゴール	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	4 質の高い教育をみんなに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	12 つくる責任 つかう責任	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう

## 1. 数値目標の進捗状況

項目	基準値 (H30)	実績値					目標値 (R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
生乳生産額 (億円)	483	492	502	514			541	95%
漁業総生産額 (億円)	98	95	56	81			100	81%
年間小売業販売額 (億円)	300	—	—	—			312	—



## 2. 具体的な施策

(ア)新規就農・担い手支援	酪農研修牧場整備事業、農業人材力強化総合支援事業、担い手プロジェクト事業、新規就農者等支援事業、地域おこし協力隊推進事業、別海町漁業後継者就業支援事業、起業家支援事業、地域雇用活性化推進事業、中小企業担い手育成事業、UIJターン新規就業支援事業
(イ)産業の競争力強化	酪農工場整備事業、農林漁業振興奨励事業
(ウ)若者人材の育成と定着の取組	北海道別海高等学校教育支援事業
(エ)地域と連携した特色ある教育の推進	別海型コミュニティ・スクール推進事業

## 3. 重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

項目	基準値 (H30)	実績値					目標値 (R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
新規就農者数【期間累計】(戸)	4	1	3	3			15	47%
漁業就業支援者数【期間累計】(人)	8	3	1	6			12	83%
起業家支援件数(件)	3	11	8	15			7	214%

項目	基準値 (H30)	実績値					目標値 (R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
別海ブランド高付加価値製品開発数【期間累計】(個)	6 (H21~)	2	2	1			4	125%
地場水産物の高付加価値や新企画商品の開発【期間累計】(件)	1 (H21~)	0	0	0			3	0%
高校新卒町内就職者数(人)	20	18	18	15			22	68%
北海道別海高等学校普通科の間口確保(学級)	3	3	3	3			3	100%
酪農経営科生徒数(人)	11	7	14	5			40	13%
高校新卒就職希望者のうち町内就職率(%)	56	56	47	42			62	68%
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入している学校区割合(%)	12.5	50	100	100			100	100%

#### 4. 基本目標の評価

<p>生乳生産額は、事業者の自助努力に加え、各種基盤整備事業を通じた生産基盤の拡大等により、1戸当たりの飼養頭数や乳量が増加傾向にあり、令和2年度に続き令和3年度も生乳生産量50万トンを達成し、乳価も安定していることから順調に推移した。</p> <p>漁業生産額は、近年の秋サケ漁獲量の激減に加え、コロナ禍の影響により生産調整等を余儀なくされたものの、ホタテ漁の好調により増加した。</p> <p>小売販売額に関しては、小売販売業全般がコロナ感染拡大の影響を大きく受けているが、起業者支援件数は商工会からの紹介もあり、飲食業、美容業を中心に獣医師や鹿肉の小売業等、地域色の濃い起業にも支援し、昨年度比約2倍の15件となった。また、株式会社べつつかい乳業興社では業務用牛乳1Lを開発する等、昨年度に引き続き、今後の効果発現に期待ができる実績となった。</p>	総合判定
	<b>B</b>
	概ね順調に進んでいる

#### 5. 今後の展開方針

<p>生乳生産額は、令和3年度まで順調に推移してきたが、コロナ禍の影響による需要低迷の長期化から令和4年度から生乳増産抑制が行われており、現状のままでは目標達成が困難な状況になることも想定される。このことから、目標達成に向け、「1day1milk」や「アイスdeスクラッチ」等の関係団体との連携した取組により牛乳乳製品の消費拡大を図るほか、状況を注視し必要な対策も検討する必要がある。また、新規就農者の確保のため、別海町酪農研修牧場の研修生確保に向けた、学校訪問やフェアへの出展等、積極的な活動を継続して実施する。</p> <p>加えて、秋サケ資源の回復や安定化に向け、稚魚養殖施設の整備等への支援やアサリ、ホッキ、ホタテ、ニシン等の種苗放流等の実施による「つくり育てる漁業」の推進に努めるとともに、新型コロナウイルス感染拡大により影響を受けた事業者が経営を持続していくための基盤強化支援や消費喚起対策を実施していく。</p> <p>さらに、雇用対策として、進学による若年層の町外流出が課題となっていることから、若年層を町内へ呼び込む新たな施策の検討や高校生を対象とした就職懇談会及び職場訪問の一体的な実施、別海町企業マップの有効な運営方法の検討等、引き続き関係団体と連携して取組を推進していく。</p>
--

## 6. 検討推進委員会の意見等

・新規就農者数だけでは人口増減は計ることができず、結局、離農者数と対比して新規就農者数が増えなければ、農業関連の人口増は認められないので、新規就農者と離農者の比較を教えてください。また、新規就農者が年間3戸増えることにより、人口減に対してどの程度の寄与度があるのかを併せて報告いただければ、理解が進むと思う。

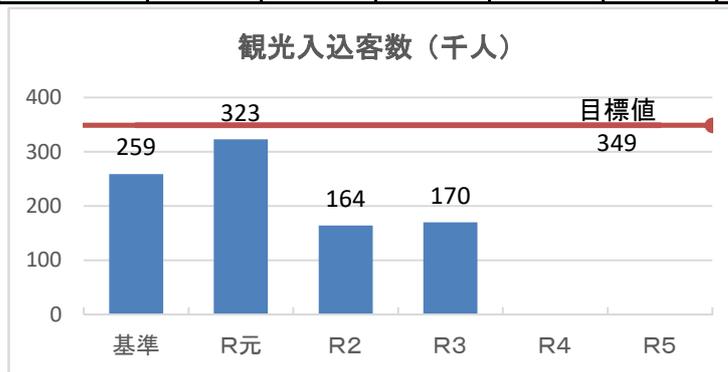
・今後の展開方針にもあるとおり、生乳生産額の令和6年度目標の達成に対しては、現状維持も厳しい状況と予測している。また、新規就農だけで人口減少を抑制することは難しく、進学等で転出した子どもたちが戻ってくる職場が町にあるかという部分では、基幹産業だけで全体を支えることは厳しいと考えるので、そのような部分も含め、議論していきたい。

## 別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標個別シート(令和3年度)

<b>基本目標Ⅱ</b>	<b>魅力あふれる地域資源・地域特性を活かした新しいひとの流れを創造する</b>		
関連するSDGsのゴール			

### 1. 数値目標の進捗状況

項目	基準値(H30)	実績値					目標値(R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
観光入込客数(千人)	259	323	164	170			349	49%



### 2. 具体的な施策

(ア) 地域資源を活かした交流人口の拡大	観光情報整備事業、えびまつり開催事業、西別川あきあじまつり開催事業、産業祭開催事業、野付半島ネイチャーセンター整備事業、キャンプ場整備事業、パイロットマラソン事業、奥行地区文化財保存整備事業、ヤチカンバ群落地保護事業
(イ) ふるさと納税を活用した関係人口拡大の取組	ふるさと応援推進事業
(ウ) 移住促進を図る移住体験施設の整備	移住定住促進事業、地域おこし協力隊推進事業、担い手プロジェクト、UIターン新規就業支援事業

### 3. 重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

項目	基準値(H30)	実績値					目標値(R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
新規観光メニュー(開発)【期間累計】(数)	2(H21~)	0	3	2			3	167%
パイロットマラソン参加者数【町外フル・5km】(人)		1,139(基準値)	0	0			1,200	0%
文化財施設の入場者数(人)		3,288(基準値)	1,242	1,575			3,000	53%
ふるさと納税寄附件数(件)	2,239	2,789	9,950	195,986			5,000	3920%
移住体験施設利用者数(人)	0	0	0	0			15	0%

#### 4. 基本目標の評価

<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大に係る緊急事態宣言の発令等により、昨年度に引き続き、町内の主要イベントの開催中止や施設の利用休止の影響があった一方、密を避けたアクティビティとして積極的なPRを行っていた「氷平線ウォーク」等の参加者増加や、全国的なキャンプ人気によるキャンプ場利用者の増加のほか、新たな観光スポットとして「平糸駅跡」と「光進駅跡」の整備等、新たな観光地の発掘も積極的に行われた結果、観光入込客数は全体で若干の増加となった。</p> <p>また、ふるさと応援・情報化推進室の設置を契機に、ふるさと納税の受付窓口となるポータルサイトを5サイトから22サイトに増加したことや返礼品の拡充、各種SNSの有効活用等、事業者と納税者の目線に立ったPRと事業展開により、寄付件数を大きく伸ばし、関係人口の創出に大きく寄与した。</p>	総合判定
	C
	あまり順調に進んでいない

#### 5. 今後の展開方針

<p>3年振りの開催となる別海町パイロットマラソン、別海町産業祭を参考としながら、引き続き感染防止策を講じたイベントの開催と、アフターコロナを見据えた観光入込客数の増加方策を検討するほか、キャンプ場の整備・PR、交通歴史遺産の観光分野での活用等、本町が誇る自然や歴史文化を活用した事業展開により、観光入込客数の増加を図る必要がある。</p> <p>また、寄附件数が大きく伸長しているふるさと納税を通じ、観光資源や特産品のPRを強化するとともに、令和4年度から運用を開始した移住体験住宅を核とした移住促進プロモーションを展開し、関係人口・交流人口の増加に努める。</p>
--

#### 6. 検討推進委員会の意見等

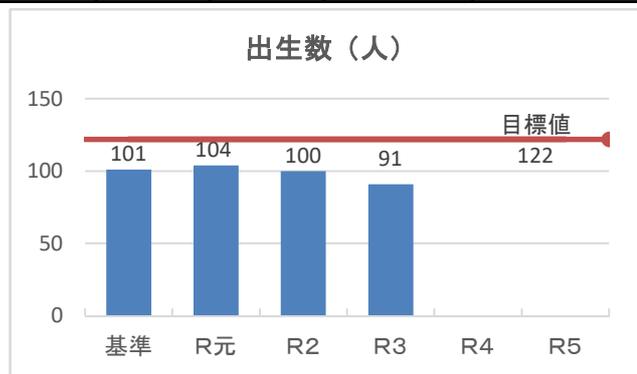
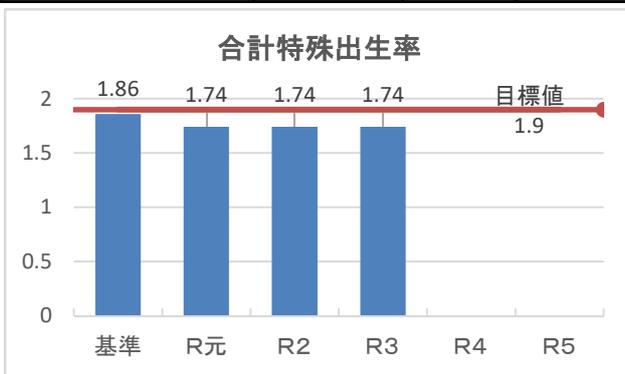
<p>特になし</p>
-------------

# 別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標個別シート(令和3年度)

基本目標Ⅲ	結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる		
関連するSDGsのゴール	 3 すべての人に健康と福祉を	 5 ジェンダー平等を實現しよう	 8 働きがいも経済成長も

## 1. 数値目標の進捗状況

項目	基準値(H30)	実績値					目標値(R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
合計特殊出生率	1.86 (H20~24)	1.74 (H25~29)	1.74 (H25~29)	1.74 (H25~29)			1.9	92%
出生数(人)	101	104	100	91			122	75%



## 2. 具体的な施策

(ア)結婚・出産・子育ての切れ目のない支援	特定不妊治療費助成事業、妊婦健康診査事業、産婦健康診査事業、出産祝金贈呈事業、産後ケア事業、乳児家庭全戸訪問事業、子育て支援拠点事業、乳幼児母親家庭教育学級、放課後児童クラブ事業、一時預かり事業、養育支援訪問事業、子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業、ファミリー・サポート・センター事業、子ども医療費助成事業、障がい者等理解促進研修・啓発事業、産業後継者との交流会支援
(イ)高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進や住みよいまちづくりの推進	共生型地域福祉拠点事業の推進、高齢者緊急通報システム運営事業、公的介護施設等基盤整備事業、介護職員確保対策事業、寿大学

## 3. 重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

項目	基準値(H30)	実績値					目標値(R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
子育て支援センター利用者数【延べ】(人)	4,859	3,488	2,823	1,857			4,600	40%
乳幼児母親家庭教育学級利用者数【延べ】(人)	2,741	1,588	2,749	709			2,800	25%
障がい者等理解促進研修・啓発事業の参加者数(人)	125	—	99	179			150	119%

項目	基準値 (H30)	実績値					目標値 (R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
共生型地域福祉拠点 事業利用者数【延べ】 (人)	1,501	1,565	800	555			1,300	43%
「ふれあい・いきいき サロン」参加者数【3 箇所1日当たり】(人)	17	19	16	19			25	76%
介護職員 初任者 研修受講者数 【期間累計】(人)	100	12	0	20			175	18%
寿大学受講者数(人)	1,289	1,240	1,137	897			1,800	50%

#### 4. 基本目標の評価

<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大に係る緊急事態宣言の発令等の影響により、一部事業の中止や参加制限、施設の臨時休館等を行ったことから、KPIに関する実績値は昨年度と比較して全体的に低調に推移した。一方で、障がい者等理解促進研修・啓発事業では、障がい者のドキュメンタリー映画の上映会をオンライン方式で2日間、インターネット環境のない町民に配慮して従前の会場方式でも1日間実施し、別海高等学校生徒の参加もあり、幅広い世代で障がい者理解が深まり、共生社会の実現に向けた土壌づくりが推進された。</p> <p>また、出生数は100人を割る実績となり、若干の減少傾向にある。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行により、人と人の交流が制限され、経済的にも見通しの立たない状況をもたらす漠然とした不安感が影響したものと考えるが、その中でも感染症対策を講じながら実施された母子保健事業や子育て支援事業のほか、間接的に実施された子ども医療費助成事業等の各種事業が、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進し、出生数の減少抑制に寄与しているものと考える。</p>	総合判定
	C
	あまり順調に進んでいない

#### 5. 今後の展開方針

<p>コロナ禍での妊娠や出産に不安を抱える妊産婦の心身のケアを行うとともに、オンラインによる保健相談の受付等、相談体制を整備するとともに、令和4年度から乳幼児母親家庭教育学級(すくすく学級)が子育て支援センター(はみんぐ)に事業統合されたことに伴い、年度当初にのみ受け付けていた学級生登録を事業ごとの参加申込に変更したことによる利用者の利便性の向上や、教育委員会と福祉部の連携を通じて利用者の増加に繋げる取組を推進し、若い世代が安心して結婚・妊娠・子育てできるような環境づくりに努める。</p> <p>さらには、子どもから高齢者まで、様々な世代が充実した生活を営むことができるよう、感染防止対策がとられたイベント実施に向けた検討や、生涯学習センター「みなくる」を核とした各種事業の展開を推進する。</p>
--

#### 6. 検討推進委員会の意見等

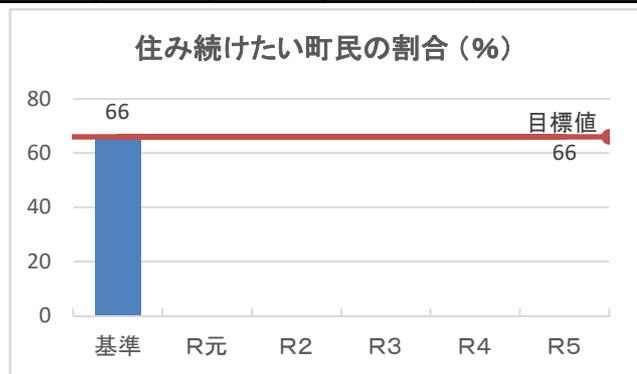
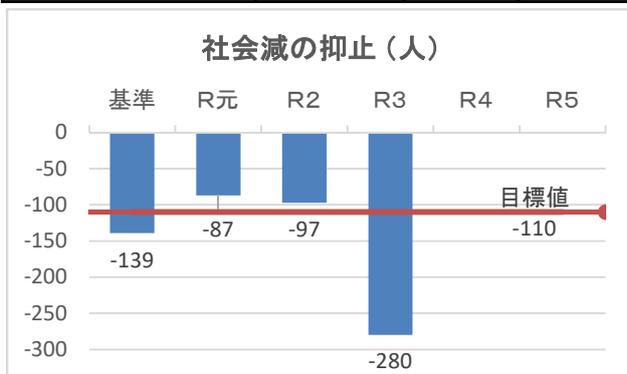
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを預ける場所の不足は移住をためらう理由の一つにもなり、未満児保育を希望する町民に対する保育の場の提供が、町全体では十分であっても、特定の地域では不足している現状が過去からある。そのような現状と、その解決の糸口が見えていないことをしっかりと把握してほしい。</li> <li>・合計特殊出生率1.9という高い目標を設定し、苦戦しているところだが、子どもを育てやすい環境を整えて、目標の達成に向け一緒に協力していきたい。</li> </ul>
--

# 別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標個別シート(令和3年度)

基本目標Ⅳ	時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る						
関連するSDGsのゴール							

## 1. 数値目標の進捗状況

項目	基準値 (H30)	実績値					目標値 (R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
社会減の抑止(人)	△ 139	△ 87	△ 97	△ 280			△ 110	39%
住み続けたい町民の割合(%)	66	—	—	—			66以上	—



## 2. 具体的な施策

(ア) 安心な暮らしの確保	地域情報通信環境整備事業、生活バス購入事業、高齢者等バス・ハイヤー共通利用券交付事業、土砂災害警戒区域対策事業、災害用備蓄資機材等整備事業、自主防災組織育成事業、地域防災センター改修等事業
(イ) 市街地の活性化	起業家支援事業、にぎわい商店街創造事業、地域貢献中小企業支援事業、町有地分譲事業
(ウ) 効率的・複合的な施設整備と地域活性化	生涯学習センター建設事業、協働のまちづくり推進事業、コミュニティ助成事業、振興奨励まちづくり振興事業
(エ) スポーツ・健康まちづくりの推進	パイロットマラソン事業、西春別スケートリンク整備事業、西春別温水プール整備事業、町営ランニングコースパークゴルフ場整備事業、町民温水プール整備事業、西春別ファミリースポーツハウス整備事業
(オ) 環境・エネルギー先進自治体の形成	二酸化炭素排出抑制対策、環境保全型かんがい排水事業、森林経営管理法に基づく意向調査及び河畔林の整備に関する事業

### 3. 重要業績評価指標(KPI)の進捗状況

項目	基準値 (H30)	実績値					目標値 (R6)	達成度
		R元	R2	R3	R4	R5		
高速無線通信事業加入件数【期間累計】(件)	117 (H21~)	0	0	0			30	0%
公衆無線LAN整備箇所数【期間累計】(箇所)	3 (H21~)	0	2	5			4	175%
高齢者バス・ハイヤー共通利用券給付者数(人)	523	601	638	670			625	107%
障がい者(児)バス・ハイヤー共通利用券給付者数(人)	227	242	264	257			300	86%
ノンステップバスの導入割合(%)	50	75	100	100			100	100%
自主防災組織等結成率(%)	62	62	81	81			84	96%
町有宅地分譲数【期間累計】(区画)	7 (H21~)	0	0	0			8	0%
空き店舗活用に対する支援数(件)	1	0	0	3			2	150%
起業者支援件数【再掲】(件)	3	11	8	15			7	214%
生涯学習「ふれあいトーク宅配講座」講座開講数(件)	26	17	14	18			50	36%
公民館利用者数(生涯学習センター)(人)	60,566	59,829	32,501	31,581			78,000	40%
公民館講座開設数(講座)	20	15	30	26			26	100%
寿大学受講者数【再掲】(人)	1,289	1,240	1,137	897			1,800	50%
スポーツ施設の利用者数(人)	133,650	147,868	121,900	108,141			161,000	67%
パイロットマラソン参加者数【町内フル・5km】(人)		342	0	0			300	0%
健康づくり事業への参加者数(人)	834	663	668	622			900	69%
町内公共施設の温室効果ガス排出量削減率(t-CO2)	12,381 (100%)	12,926 (104%)	12,144 (98%)	11,581 (94%)			10,007 (81%)	32%
肥培かんがい施設整備数【期間累計】(戸)	11	9	9	9			25	108%
森林経営管理法に基づく意向調査実施人数【期間累計】(人)	—	100	100	200			600	67%

#### 4. 基本目標の評価

<p>生涯学習センター「みなくる」の供用開始や町内全域での光ファイバ整備工事の完了により、町民生活の向上と地域活性化に向けた基盤整備が図られた。</p> <p>また、公衆無線LANの整備を通じ、コロナ禍の影響で多様化する生活・就労のニーズに対応できるまちづくりを推進したほか、起業及び空き店舗活用に対する支援を通じ、まちの活性化に寄与した。</p> <p>これらの事業の実施に加え、新規就農者や雇用の確保等の各種事業に取り組んだことで、転入の促進と転出の抑制が一定程度図られたものと考え、新型コロナウイルス感染症の影響により抑制されていた人流が動き始めたほか、外国人実習生に係る転入の減少と転出の増加により、社会減の数値は目標を大きく下回る実績となった。</p>	総合判定
	C
	あまり順調に進んでいない

#### 5. 今後の展開方針

<p>光ファイバの整備が完了したことから、回線利用率の向上に努めるとともに、観光施設(キャンプ場)や災害時避難施設等への公衆無線LANの設置を検討するなど、情報基盤の整備を併せて実施する。さらに、農業(スマート農業)や教育(GIGAスクール構想)、防災等の分野における活用等、未来技術を活用した社会(Society5.0)をイメージしつつ、具体的な課題解決に取り組む。</p> <p>また、令和4年度から供用を開始している生涯学習センター「みなくる」について、身近な学びの場、新たな交流拠点となるよう、町民からの要望に基づき実施されるリクエスト講座や受講者が減少傾向にある寿大学学習会の充実を図り、利活用を促進していく。</p> <p>加えて、令和4年度に3年ぶりに開催される別海町パイロットマラソン等のスポーツイベントや各種スポーツ施設の改修・整備を通じ、全ての町民が安全・安心にスポーツを楽しみ、健康づくりとスポーツ交流を図れる環境づくりを推進していく。</p> <p>さらには、起業及び空き家活用の支援件数は増加しているものの、多様化する職業や就労形態のニーズに対応しきれていない現状もあることから、制度等の見直しを検討し、市街地の活性化及び雇用の確保等に繋がるような支援策となるよう取り組んでいく。</p>
---

#### 6. 検討推進委員会の意見等

<p>・社会減280人という突出して高い数字に対して、具体的な原因の分析とその対策を検討しなければ、社会減による人口減が加速する恐れがある。もし、具体的な原因が分かるのであれば、次回以降の委員会等でお示し願いたい。</p>
---